

【社会】 < 小学校 第6学年 >

1 結果のポイント

「日本の歴史」について、「古墳時代」から「明治時代」の各時代についての用語やその意味の理解をみる問題では、正答率が75%を上回っているものが多い。

「国ができあがってくるころ」社会の様子について、絵図を手がかりに読み取る問題では、正答率が80%を上回っている。

鎌倉時代の政治の中心地について、地図を活用してその位置の理解をみる問題では、正答率が55%程度である。

徳川家光が、大名を従えるために行った工夫を複数の資料から読み取り、キーワードを用いて表現する問題では、正答率が50%を下回っている。

明治維新に活躍した人物のかかわりを、関係図のキーワードから読み取り、矢印を活用して適切に表現する問題では、正答率は50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > **3** の3

<p>3 3 下線 とかわりりの深い人物を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を <input type="text"/> の中に書きましょう。</p> <p>ア 紫式部 イ 雪舟 ウ 伊能忠敬 エ 歌川広重</p>	<p>室町時代に中国から <small>すいぼくが</small> すみ絵(水墨画)のえがき方が伝えられました。</p> 
---	---

< 結果 > 正答率 87.2% (正答...イ)

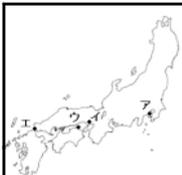
< 分析 >

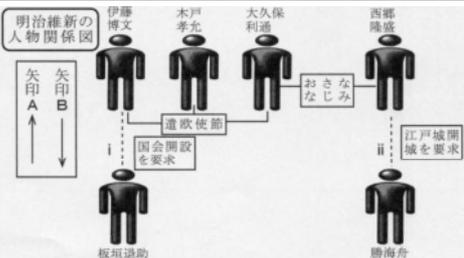
この設問は、雪舟の業績の理解をみる問題で、正答率は85%を上回っている。また、同じような力をみる問題をもて、聖武天皇の業績の理解をみる**2**の3は87.8%。織田信長の業績の理解をみる**4**の1は92.0%と正答率は高い。

これは児童の興味・関心を重視し、歴史上の人物を取り上げ、その時代の世の中の課題をどのように解決していったかを調べる学習が十分に行われているとともに、人物の動きについて具体的に理解できるような指導が行われている成果であると考えられる。

(2) 「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

< 問題 > **3** の1 **6** の4

<p>3 1 下線 の位置として正しいものを、下の日本地図のア～エの中から一つ選び、その記号を <input type="text"/> の中に書きましょう。</p> <p>源頼朝は1192年、武士のかしらとして朝廷から征夷大將軍に任じられました。頼朝が <small>かまくら</small> 鎌倉に開いた政府を鎌倉幕府といいます。</p>	
--	---

<p>6 4 まこさんは、明治政府の人物のかかわりを関係図にまとめ発表しました。図中に点線で示した および の関係を表すのにふさわしい矢印の組合せを、下のア～エの中から一つ選び、その記号を <input type="text"/> の中に書きましょう</p> <p>ア 矢印A 矢印A イ 矢印B 矢印B ウ 矢印A 矢印B エ 矢印B 矢印A</p>	<p>明治維新の人物関係図</p> 
---	--

< 結果 > ③ の 1 正答率 55.3% (正答...ア)
 ⑥ の 4 正答率 45.9% (正答...ウ)

< 分析 >

③の1は「日本地図に鎌倉の位置を示すことができるか」をみる問題である。正答率は55.3%である。昨年度の類似問題の正答率は48.4%であることから改善の傾向にあるが、まだ課題があると言える。今後も地図帳等を活用し、各時代の政治の中心地や主なきごとの起きた場所を確かめる指導を充実し、歴史的事象を「時間」と「位置」でとらえていく学習を進める必要がある。

⑥の4は「自分の考えを人物関係図にまとめる力」をみる問題である。正答率は50%を下回っている。このことから、歴史的事象や人物の関係を整理したり表現したりする力が十分身に付いていないことが分かる。今後は、調べたことをもとに自分の考えを整理したり、図や表を活用して分かりやすく表現したりする学習を充実させていく必要があると考えられる。また、この結果から分かることとして、明治時代以降は、歴史的事象や人物が複雑に絡み合っているため、理解が図られにくいという面もあることが考えられる。このことは、中学校第2学年の明治維新にかかわる理解をみる問題の正答率が、55%から65%程度という結果からも伺える。このことから、小学校においても明治時代以降の学習の充実が必要であると考えられる。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

< 問題 > ⑤ の 2

⑤ 2 一郎さんは と の資料の下線と の資料をもとに、徳川家光がどのようにして大名を従えたのかを説明しました。「負担」ということばを使って、 中の説明を完成させましょう。

徳川家光は大名をしたがえるために、

① 徳川家光の年表

年	おもなできごと
1604	江戸城で生まれる
1616	祖父 <input style="width: 20px;" type="text"/> a の死
1635	参勤交代を制度とする
1636	諸大名に対して江戸城内の修理を命令する
1639	鎖国の完成

② 武家諸法度

- 大名は、毎年4月に参勤交代をすること。
- 自国の城を修理する場合、とどけ出ること。
- 将軍の許可なしに大名の家どうしで結婚してはいけない。
- 大きな船をつくってはいけない

③ 金沢藩の支出

< 結果 > ⑤ の 2 正答率 39.3% (正答 略)

< 分析 >

この設問は、「3つの資料から読み取ったことを総合して考える力」をみる問題である。思考を促すよう「負担」というキーワードを示したが、正答率は40%を下回った。これは、江戸幕府の行った政策について調べる学習はできているが、調べたことをもとにその意図を考える中で、複数の資料から読み取ったことを比較・関連付け・総合しながら再構成することが十分に行われていないためであると思われる。同様の力をみる⑥の5でも、正答率は40.5%であったことから、今後、複数の資料を根拠にして考え、判断し、表現する学習の充実がより一層求められる。また、その中で、学習を振り返り様々な事実を整理しながら、課題に対する自分の考えをまとめ、記述する指導を一層充実させる必要がある。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

明治時代以降の学習の充実を！

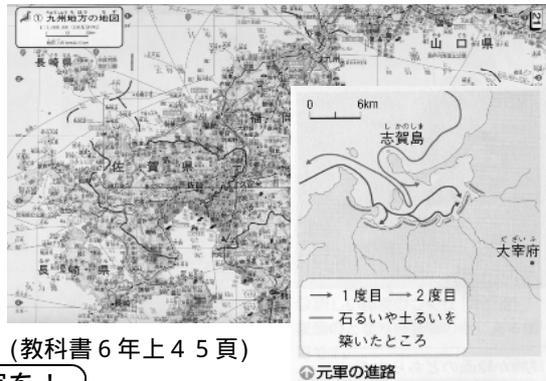
.....例

- ・明治時代の学習の学習時間を十分確保するために、年間指導計画を見直し、指導内容や指導時間に偏りがないようにするとともに、それに従って計画的に授業を進めることが大切である。
- ・単元指導計画の見直しでは、歴史的事象を扱う時数に軽重をかけることも大切である。例えば、黒船の来航、明治維新、文明開化については、明治維新の西郷隆盛や大久保利通らによる諸改革を中心に取り上げることで、黒船の来航はその改革を行うきっかけとなったできごととして、文明開化はその改革の結果として扱うことが考えられる。
- ・単元指導計画の終末には、明治維新において活躍した人物の果たした役割について考えを話し合ったり、人物関係図にまとめたりするなど、歴史的事象や人物の関係を整理する場を位置付けることを大切にしたい。

(2) 指導方法の工夫改善

年表や地図帳を活用する指導の充実を！

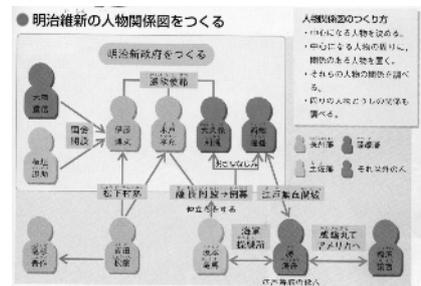
- ・児童にとって我が国の歴史を初めて学習することから、年表の見方については丁寧に教える必要がある(教科書6年上22, 21頁参照)。また、年表で人物の生涯を概観したり学習したことを年表にまとめたりするなど、繰り返し年表を活用する場を設定したい。その際、児童が事象間の時間についても目を向けられるようにしたい。
- ・児童が地図帳の活用の意義に気付くことができるようにする必要がある。そのために、例えば「元」との戦いでは、教科書にある「元軍の進路」を「地図帳」で補いながら指導することが考えられる。これにより、児童は、「元」との戦いが鎌倉から遠く離れた場所で行われたことや築かれた石塁の長さを改めて実感することができる。このような指導を通して、児童が歴史的事象を空間的にとらえるよさを味わえるようにすることが大切である。



(教科書6年上45頁)

考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う活動の充実を！

- ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために、収集した資料を選択し加工する活動や、歴史的事象や人物の関連を図や線を使って表現するなどの活動を設定したい。その際、自分の考えが深まるような指導をすることが大切である。
- ・例えば、幕末から明治の初めにかけての学習のまとめとして、人物関係図をつくる活動においては、図全体の構成を考えて中心になるものは何か考えたり、人物の関わりの深さを考えて線の太さで表現したり、働きかけの方向を考えて矢印で表現したりできるようにするなど、教師の指導・援助が大切である。



(教科書6年上89頁)

複数の資料から読み取ったことを比較、関連付け、総合しながら、自分の考えを再構成する学習を！

- ・一つの資料から事実を読み取り自分の考えをもつことができても、資料が複数となると難しい。そこで、教師は、児童一人一人の考えを聞き分け、整理しながら構造的な板書にまとめ、相違点や今の論点はどこなのかをはっきりさせることが必要である。その中で、一人一人の考えが深まるように「一番中心となっているのはどれだろう。」「まとめるとどういうことだろう。」といった、ねらいに立ち返って考え直すことができるような働きかけを行うことが大切である。
- ・終末での振り返りでは「授業で分かったことをもとに自分の立場を書いてみましょう。」といった、児童に判断を促す指導・援助も大切である。

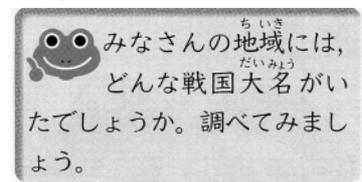
(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

歴史年表、地図が十分活用できる学習環境の工夫を！

- ・自分が学習している内容がいつ、どこでおきたことなのか確かめることができるよう、教室に古代から現代までの略年表や日本地図を掲示することが望ましい。さらに、児童が説明するときを使う指示棒を準備すると、それらを活用して学習を進めることができる。

児童の興味・関心を高めるはたらきかけを！

- ・家庭において、児童が、学校で身に付けた調べ方やまとめ方を転化しながら学習することができるようにすることが大切である。そのために、歴史的事象と自分たちの生活とのかかわりに目を向けるような働きかけをすることで児童の追究意欲を喚起したい。



(教科書6年上51頁)

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16~H18)及び授業改善推進プラン(H19・H20)」を参照する。<http://www.gifu-net.ed.jp/gec/>

- 例 : 平成19年度 授業改善推進プラン 第6学年
明治時代の人物とその業績について意欲的に意味追究をする指導改善に取り組んだ実践
- 例 : 平成18年度 学力向上P」授業改善 第6学年
年表の作成を通して歴史事象を複数の視点から比較・関連させて再構成した実践

関心・意欲・態度にかかわる指導改善の詳細については、P87意識調査結果を参照する。

- 小学校第6学年社会の授業において、児童が楽しいと感じるのはどんなときか。
第1位: 観察や見学をして調べているとき 第2位: 自分で疑問が解決できたとき